

令和3年度  
全国学力・学習状況調査  
結果の分析と考察

# 長沼町の児童生徒の 学力や生活習慣は？

【 長沼町教育委員会 】

令和4年1月発行

## ○全国学力・学習状況調査について（令和3年5月27日実施）

この調査は、

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てること
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること

という目的で、文部科学省が平成19年度より実施しています。

教科に関する調査では、「身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等」に関する問題として、**【国語、算数・数学】**を実施しました。

教育委員会では長沼町教育の充実に資するため、今年度も、調査対象である町内の小学「6学年」及び中学校「3学年」が本調査に参加しました。

今年度の調査における全体的な学力・学習状況については、小学校は、全道を上回り、全国平均とほぼ同様の傾向となりました。国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域や算数の「数と計算」「測定」「データの活用」領域は全道・全国を上回りましたが、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」領域や算数の「図形」領域でやや課題が見られました。

中学校では、国語は、全道・全国平均を上回り、数学は全国平均をやや下回るが、全道平均と同様の傾向でした。国語の「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域や数学の「図形」「関数」領域は、全道・全国平均を上回りましたが、国語の「話すこと・聞くこと」領域や数学の「数と式」「資料の活用」領域でやや課題が見られました。また、学習習慣や生活習慣等に関する状況については、家庭での学習時間が短いことやテレビゲームをする時間が長いことなどに課題が見られました。

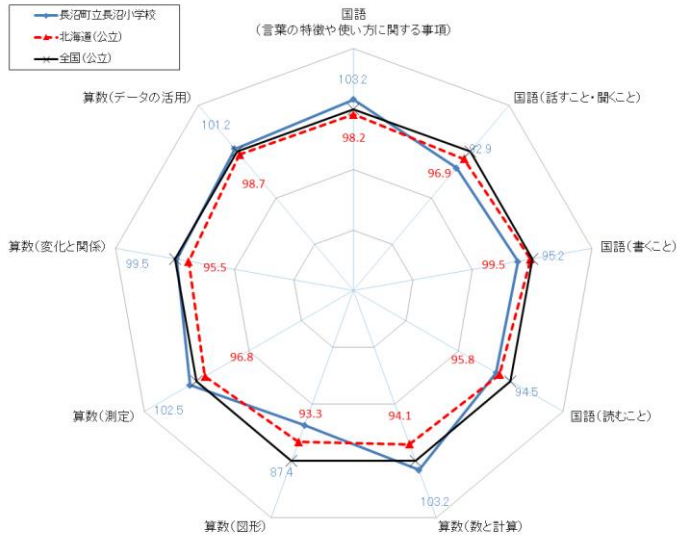
教育委員会としては、これまでの取組の成果と課題を客観的に判断し、今後の対策を明確にしていくことが重要であり、子供たちの学力向上のためには、保護者、町民の皆様と成果と課題などを共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが不可欠であると考えています。

また、成果や課題の中から特に指導の改善が必要であるものは、その出題の趣旨を踏まえ児童生徒に身に付けさせなければならない力を分析し、授業改善を通して児童生徒一人一人に確かな学力が身に付くことを目指しているところです。

# 長沼町の児童生徒の学力の傾向

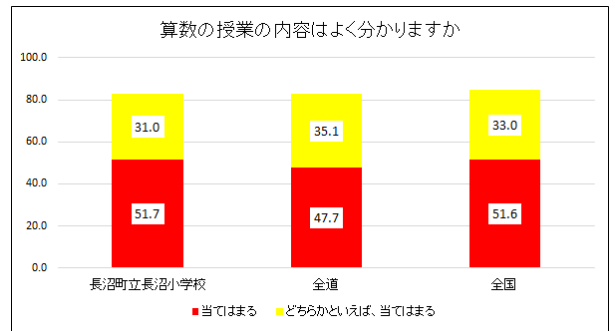
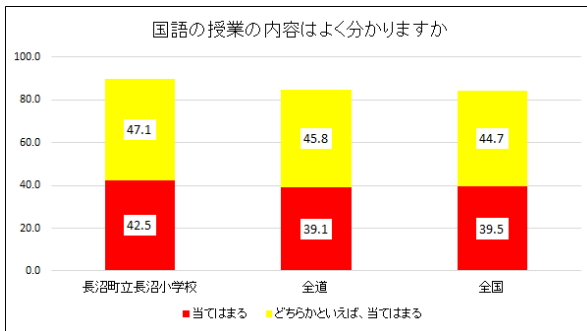
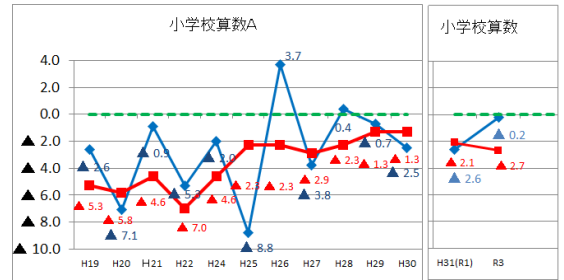
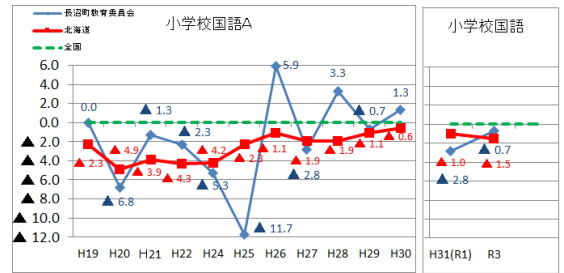
## ＜小学校 教科全体の状況＞

※全国の平均値を100とした場合の指数で示しています。



## ＜平均正答率の全国との差の推移＞

※H31年度より、国語A・B、算数A・Bから国語、算数へ変更



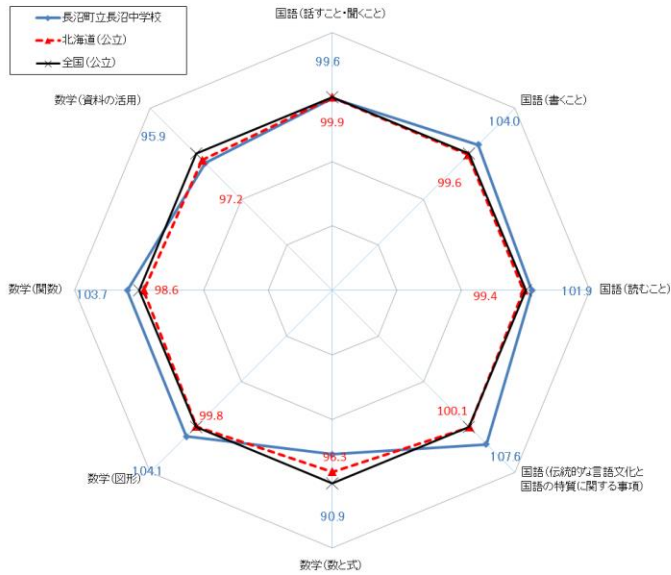
### 国語 ～ 全道平均を上回り、全国平均とほぼ同様

- 資料を活用して自分の考えが伝わるように話す場合、聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのか、どのような説明を加えると話の内容を分かりやすく伝えられるのかについて検討し、自分の表現に生かすことができるように指導することが大切である。
- 自分の考えが伝わるような文章を書くためには、目的や意図に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合を、自ら判断して書くことが重要である。その上で、事実と感想、意見とを区別して書くことができるように指導することが大切である。

### 算数 ～ 全道平均を上回り、全国平均とほぼ同様

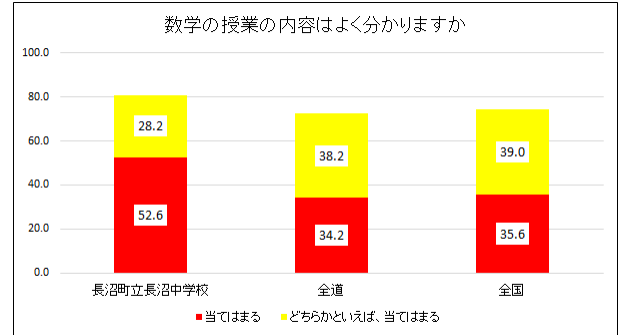
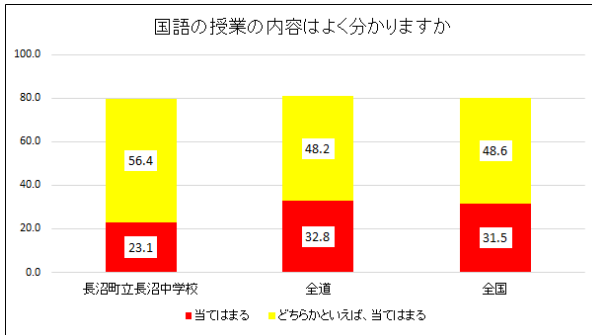
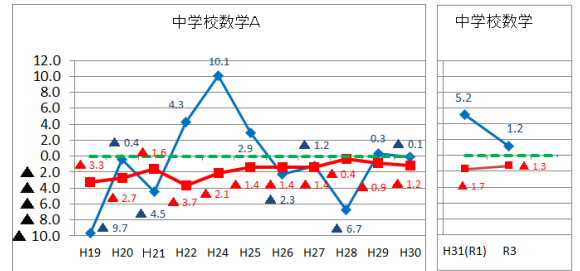
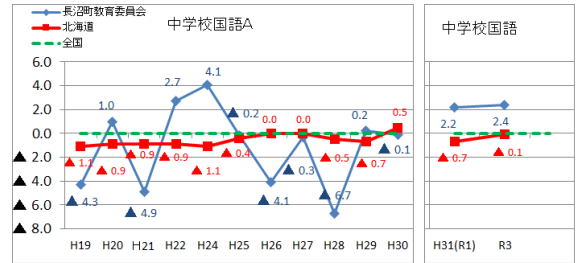
- 図形の学習では、公式を導き出す過程において、図形のどこの長さに着目すると、面積を求めることができるのかを考えさせる活動が大切である。また、公式を用いて面積を求める場面において、底辺と高さの関係を理解し、必要な情報を選び出す活動を充実させることが大切である。
- データを活用して統計的に問題を解決する場合、身の周りの事象について、その事象の因果関係や傾向を漠然と捉えるだけでなく、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察していくことができるように指導することが大切である。

## <中学校 教科全体の状況>



## <平均正答率の全国との差の推移>

※H31年度より、国語A・B、数学A・Bから国語、数学へ変更



### 国語 ～ 全道・全国平均を上回っている

- 話し合い活動をする際は、話し合いが効率よく進むために、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめたりする力を培う指導に加えて、話し合いの過程で進み具合を客観的に把握したり、それまでの話し合いの経緯を振り返ってこれからの展開を考えたりする指導が必要である。
- 文学的な文章を読むに当たっては、文脈の中における語句の意味を理解したり、場面の展開や登場人物の描写に注意して読んで内容を理解させたりするとともに、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるような指導が大切である。

### 数学 ～ 全国平均をやや下回るが、全道平均と同様

- 問題解決の場面で方程式を活用する際に、問題の中にある数量やその関係を捉え、一元一次方程式をつくることができるように指導することが大切である。また、具体的な問題を方程式を活用して解決する際は、方程式を活用することのよさを実感できるような指導をすることが大切である。
- 大きさの異なる二つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較するために、相対度数が必要であることを理解できるように指導することが大切である。

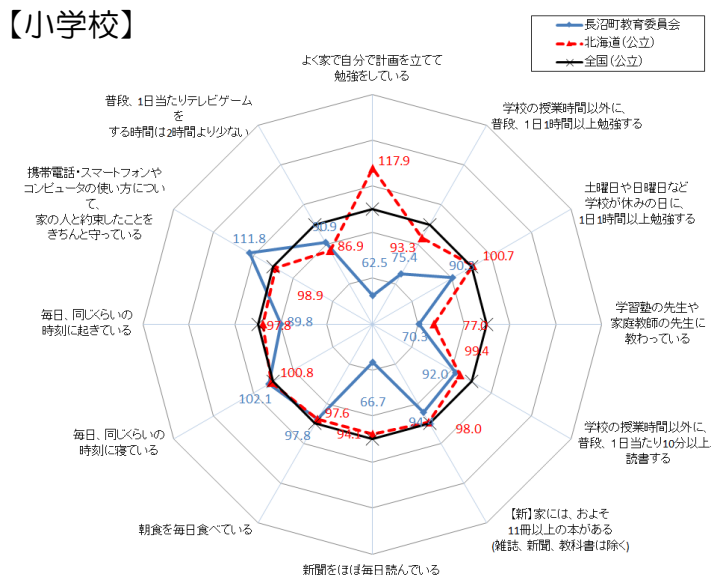
# 児童生徒の学習習慣や生活習慣の傾向

～児童生徒質問紙調査から～

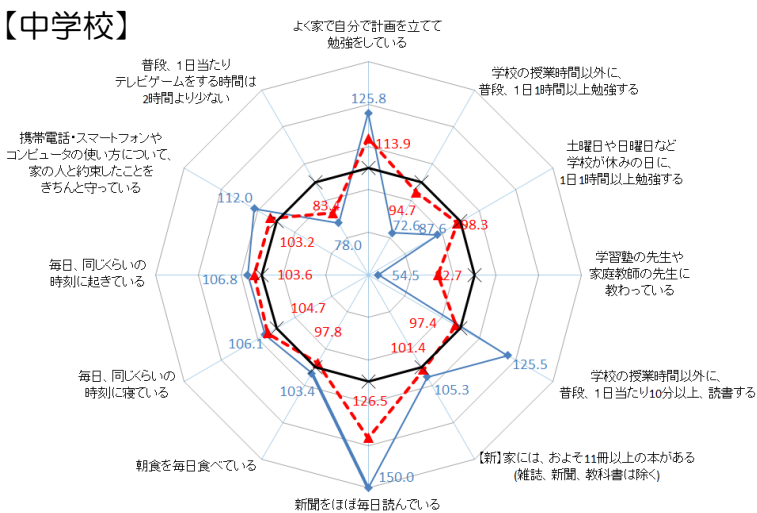
●生活習慣や学習環境などに関する質問を「学習習慣・生活習慣」「自尊意識・規範意識・地域社会」の二つの項目におおまかに分類し、本町の傾向を分析しています。 ※全国の平均値を100とした場合の指数で示しています。

## 1. 学習習慣・生活習慣

### 【小学校】



### 【中学校】



◆ 平日1時間以上家庭で学習する割合は、小中学校ともに全道・全国平均よりも低い傾向が見られる。

◆ 平日の家庭での読書時間については、中学校では全道・全国平均よりもかなり高い傾向であるが、小学校では全道・全国平均を下回っている。

◆ 朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小学校では全道平均を上回り、中学校では全道・全国平均を上回っている。

◆ 規則正しい起床・就寝については、就寝時刻が決まっているとの回答は、小中学校とも全道・全国平均よりも高くなっている。

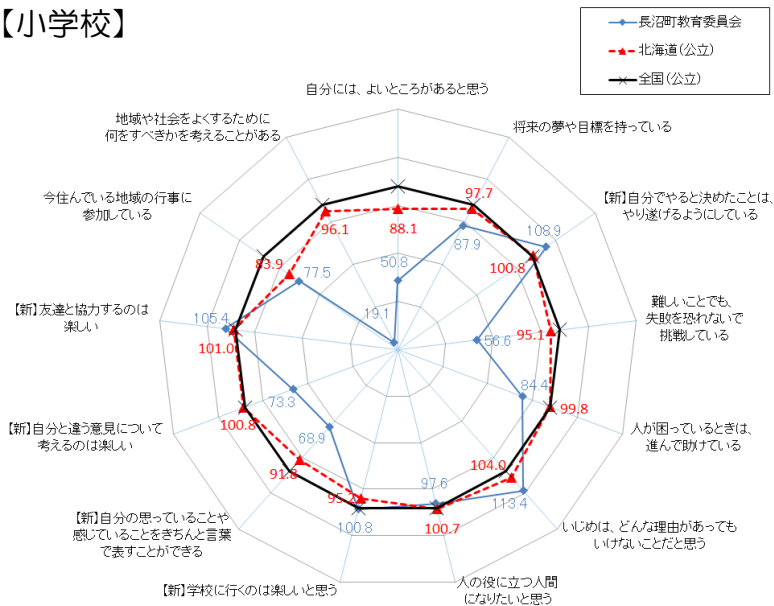
◆ 起床時刻が決まっているとの回答は、小学校では全道・全国平均を下回っているが、中学校では全道・全国平均を上回っており、中学校は、おおむね規則正しい生活習慣が図られていると考えられる。

◆ 平日、テレビゲーム(コンピュータゲーム・携帯ゲーム・携帯電話・スマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間は、小学校では、全国平均よりも長く、中学校では、全道・全国平均よりも長くなっている。

- 家庭学習習慣の定着や有効な時間の使い方・計画的な学習の立て方について、小中学校一斉に実施している「家庭学習強化週間」などをもとに、学校と家庭が一層連携した取組を行う必要がある。
- 学校における教育活動の中だけでなく、あらゆる機会を通して、読書の楽しみを知らせ、読書の質を高めていく指導が必要である。
- 今後も生活リズムチェックシート等を活用し、家庭での生活リズムの点検を行い、家庭との連携を強め、学習習慣や生活習慣の改善・向上を図る必要がある。

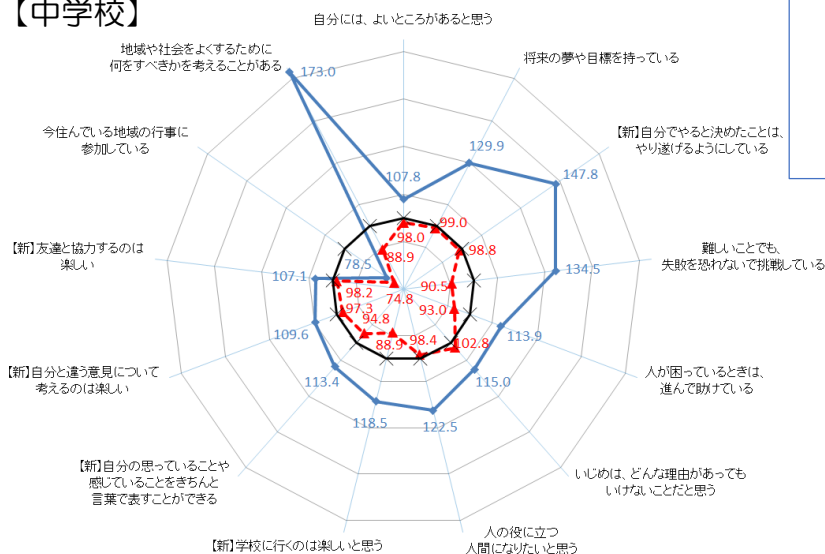
## 2. 自尊意識・規範意識・地域社会について

### 【小学校】



- ◆ 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した割合は、小中学校とも全道・全国平均を上回っている。
- ◆ 「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦をしている」と回答した割合は、小学校では、全道・全国平均より低く、中学校では全道・全国平均より高い傾向にある。
- ◆ 地域や社会をよりよくしたいという意識は、中学校では、全道・全国平均と比較してかなり高い傾向にある。
- ◆ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「友達と協力するのは楽しい」「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した割合は、小中学校とも全道・全国平均より高い傾向にある。

### 【中学校】



- 学習場面・生活場面で児童生徒の努力を認め、自信と自己肯定感をもたらす指導や励ましが必要である。
- 総合的な学習の時間等での地域学習や社会教育と連携した郷土を愛する気持ちを育てる体験学習、さらには自分の可能性を伸ばすためのキャリア教育の一層の積み重ねが必要である。
- 今後も小中学校で連携して、道徳の時間を要とした心の教育の一層の充実を図ることが必要である。

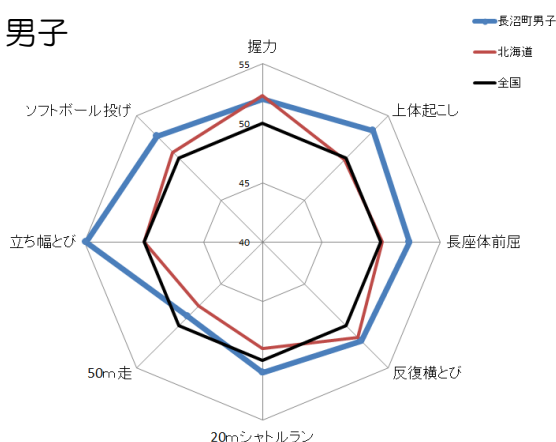
# 全国体力・運動能力、運動習慣等の結果より

- 小学校5年生と中学2年生を対象に「実技に関する調査」と「質問紙調査」が行われました。この調査は、子供の体力向上に係る施策の検証と、学校の体育・健康に関する指導を改善するために実施されています。

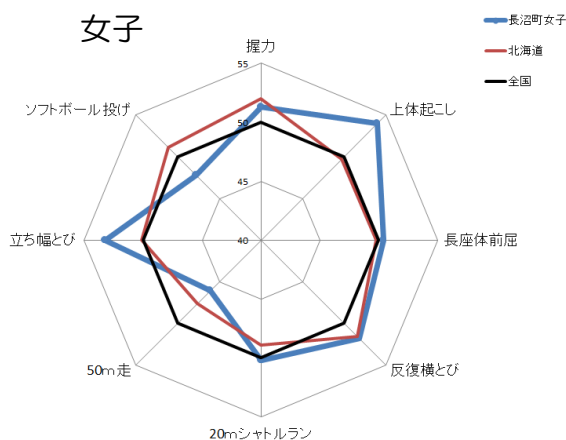
※全国の平均値を50とした場合の指数で示しています。

## 【小学校の状況】

### 男子



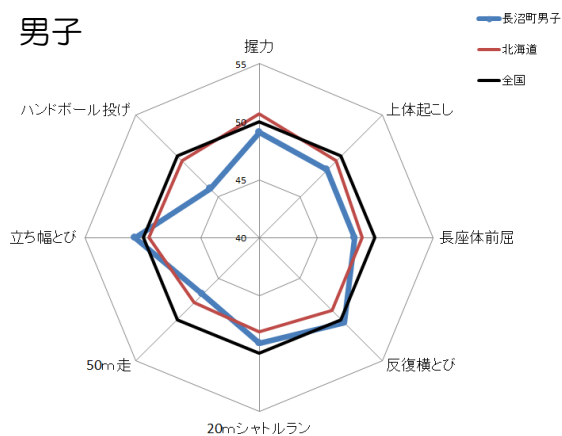
### 女子



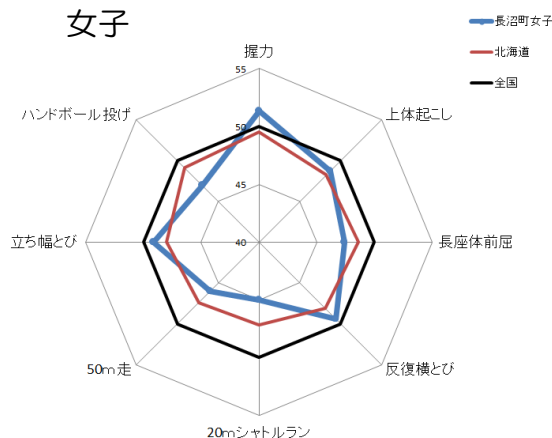
- ◆ 男子は50m走がやや全国平均を下回ったが、その他全種目が全国平均を上回っている。
- ◆ 女子はソフトボール投げ、50m走が全国平均を下回っているが、シャトルランが全国平均同等であり、その他5種目においては、全国平均を上回っている。

## 【中学校の状況】

### 男子



### 女子



- ◆ 男子は反復横跳び、立ち幅跳びは全国平均と同等であるが、その他5種目では全国平均を下回っている。特にハンドボール投げが低い結果となっている。
- ◆ 女子は握力が全国平均を上回っているが、立ち幅跳び、反復横跳びが全国平均並みであるがやや下回り、走力種目・投力種目ではさらに低い結果である。

- 全学年・全種目で実施している新体力テストの結果を踏まえた体育の授業改善や学校の特色を生かした「1校1実践」の推進により、日常的に運動好きな児童の育成、体育授業以外での運動習慣を確立させるような指導が必要である。

# 長沼町の児童生徒の学習と生活の充実のために

◎ 学校では、「子供たち一人一人の学びをしっかりと支える教育（誰ひとり置き去りにしない教育）」を目指します。

- 1 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力を高める指導に努めます。
  - (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現、ICT機器を効果的に活用した授業改善に努めるなど、研修に努めます。
  - (2) 統一感のある学習スタイルや教室環境づくりを徹底します。
  - (3) 放課後や長期休業中の学習のサポート、チャレンジテストの活用、宿題や家庭学習など、学びの意欲を高める取り組みを支援します。
- 2 子供の自尊感情を育てる取り組みを推進します。
  - (1) 一人一人の子供に寄り添った「わかる」授業づくりを継続します。
  - (2) 道徳の授業を充実させ、学校行事等の教育活動全般で、児童生徒に自信を持たせたり、成就感を持たせたり、自分の良さに気付かせたりする活動を意図的に計画し取り組みます。
- 3 子供の体力向上の取り組みを推進します。
  - (1) 新体力テストに学校全体で取り組み、継続的な指導を行います。
  - (2) 各校で特色のある体力向上策「1校1実践」を推進します。

◎ 家庭・地域では、学校、PTAと連携・協力して、子供の生活習慣を見直し、家庭学習や読書習慣の定着に向けた取り組みをお願いします。

- 1 「早寝・早起き・朝ごはん」による生活リズムの確立に努めましょう。
- 2 確かな学力を育むため、宿題や家庭学習（予習・復習）の時間の確保など、学校と協力して学習習慣を改善しましょう。
- 3 テレビ・ビデオ、ゲーム、スマートフォンなどの利用時間や使い方について、家庭でのルールづくりをしましょう。
- 4 家庭での手伝いや勤労体験を通し、家族の一員としての自覚を育みましょう。
- 5 地域の大人が子供に関わり、子供たちの地域や社会への関心を高め、地域ぐるみで子育てを推進しましょう。

◎ 教育委員会では、学校と連携して、子供たちの確かな学力の定着に向けた取り組みを進めていきます。

町学習支援員や非常勤講師の配置を生かしたきめ細やかな少人数指導体制の充実、ICT関連教育機器の充実、小中一貫事業の取り組みなど、教育環境と指導の在り方を充実させます。また、放課後や長期休業中の学習サポートや子供の安全見守りなどの学校支援活動をはじめ、放課後子供教室や土曜学習の実施などによる家庭教育への支援を通して、地域教育活動を活性化するための取り組みを推進し、一人一人の子供たちが学びやすい環境づくりを進めます。